



小貝川の土手には菜の花やヨモギの若葉が芽吹いていました

春の息吹を感じながら歩く やすらぎの里ウォーキング大会

住民主体で地域活性化に取り組む「蚕飼地区まちづくり推進委員会」が3月10日、やすらぎの里しもつまをメイン会場に、5回目となるウォーキング大会を開催し、市内外から約160名が参加しました。

今回歩いたコースは、やすらぎの里しもつまを出発し、蚕飼地区の集落を抜け、筑波山を眺めながら小貝川の右岸を川上に向かって歩き、やすらぎの里しもつまに戻ってくる7kmと5kmの2コース。参加者は休憩を取りながら、約1時間半で全員が元気に完歩しました。

宗道地区から参加した70歳の女性は「風も無く、穏やかな天気の中で気持ち良く歩けました。小貝川の土手にはヨモギの若葉をみつけ、春を感じました」と話していました。

「下妻市のシンボル・砂沼をいつまでもきれいに」を合言葉に3月10日、砂沼の桜が咲く前のこの時期「砂沼をきれいにする運動」が行われ、自治会や市内企業、各種団体の会員など500名の市民が参加しました。

拾い集められたごみの量は、可燃ごみ730kg、不燃ごみ340kgの計1,070kgと、相変わらず膨大なごみが回収されました。

当日は、下妻発のご当地アイドル「しもんChu」が6色の作業服を着て運動に参加し、「砂沼がきれいになって良かった。これからも下妻の役に立ちたい」など感想が聞けました。

また、稲葉市長からは「多くの方の協力により、きれいになり、これから花見など多くの観光客を砂沼に迎えたい」と感謝と期待が寄せられました。



運動に参加したしもんChuメンバーと稲葉市長

砂沼の桜が咲く前に…砂沼をきれいに

砂沼をきれいにする運動



学び舎に卒業生全員で別れを告げました(上妻小学校)



3年間の想いを胸に卒業証書を受け取る(下妻中学校)



先生や後輩たちに見送られる卒業生たち(下妻中学校)

まちのわだい

Town Topics

希望を胸に 新たな道に歩み出す 市内小・中学校で卒業式

3月12日、市内各中学校で卒業式が行われ、473名の生徒が旅立ちを迎えました。

学校長やPTA会長などの来賓から贈られる祝福と激励の言葉。在校生からの熱い感謝の送る言葉と卒業生全員で思い出を振り返るお別れの言葉に、卒業生や保護者からは輝く涙がこぼれていました。

3月19日には、市内各小学校で卒業式が行われ、470名の児童が新たな道に歩み出しました。

ほっとしポライン Hot Repo Line 市民の声

私は、昨年、下妻青年会議所の「パーソナルダイナミクス」というセミナーを受講して、「人間は自分の中で勝手に自分を制御し、可能性を失っている」ということを学びました。私自身の人生を振り返ると、高校球児でありながら甲子園を目指していなかったこと、「常総学院や水戸商業などの県内強豪校には自分たちは勝てないのだ」と思いながら野球をやっていたことに後悔していたのです。

現在の可能性あふれる青少年には私のような経験をしてほしくない。華やかな青春時代を過ごしてほしいと思い、高校時代に取手二高で茨城県勢初となる「甲子園大会優勝」を経験し、そして私達の地元下妻二高を甲子園に導いた下妻二高野球部監督・小菅勲先生に「目標に向かって絶対にあきらめない強い気持ちで取り組む姿勢」を題として2月10日、市民文化会館で講演していただきました。第二部のパネルディスカッションでは、小菅先生の親友でもあり監督としてライバルでもある常総学院野球部監督・佐々木力先生に友情出演していただき、青少年たちの質問に対し、的確なアドバイスをしていただきました。

下妻青年会議所で青少年の健全育成に活躍する
藤部正博さん(鎌庭)からのお便りを紹介します。

参加者の青少年たちは「これから目標に向かって一日一日を大事に努力していきたい」「下妻二高の野球部に入って甲子園を目指します」などと多くの前向きな声飛び交い、青少年たちの意識啓発ができたと思います。これからも、青少年が強い気持ちを持って青春時代を最大限謳歌できるような未来を創造していく活動をしていきたいと思っています。



小菅監督(左上)と佐々木監督(右下)からサインボールがプレゼントされました

できないことをやるに決める「行くぞ甲子園」
絶対にあきらめない気持ちで夢をつかまそう

震災記憶の風化防止にも一役 公民館まつり

会場を千代川公民館から下妻公民館と市民文化会館に移し、展示や発表への参加者拡大を図った「公民館まつり」が2月22日から24日まで開催され、市民文化会館では24日、「歌と踊りの祭典」が大ホールで満席の盛況。下妻公民館では市内公民館や市民センターの教室生等の発表があり、約1,000人が訪れました。

中でも、ひときわ目を引いたのが、東日本大震災復興支援と震災記憶の風化防止をテーマにした、公民館育成の「陶芸クラブ」(富岡茂会長)の会員約40人が、湯のみ茶碗や皿、花瓶など約500点を出品したコーナー。100円から2,000円で販売された作品は評判を呼び、「私も買うことで復興に役立ちたい」などと話しながら買い求められ、売上金から10万円が新聞社を通じて被災地支援基金に寄付されました。



益子焼風など様々な作品が並びました



紙パックをつくらった駒を回して遊びました

おもちゃのプロが伝授する「手づくりおもちゃ親子教室」が3月6日、1歳2か月から3歳未満の子どもを対象に市保健センターで開催され、市内の親子25組50人が参加しました。

音楽に合わせて身体を動かしたり、牛乳パックの紙を正方形に切り出したものに親子で絵を描き、駒をつくらせて楽しく遊びました。

おもちゃインストラクターの道村留美さんは、おもちゃを買うポイントとして「ボタンを押せば音が出るものやいつも答えが一緒のおもちゃではなく、手先を使ったり、自分で考え、コミュニケーションが取れるおもちゃを上手に選んでほしい」と話していました。

おもちゃのプロが伝授 手づくりおもちゃ親子教室